

新東名高速道路「新磐田スマートIC」の 利用状況と整備効果

令和5年5月

静岡県 磐田市

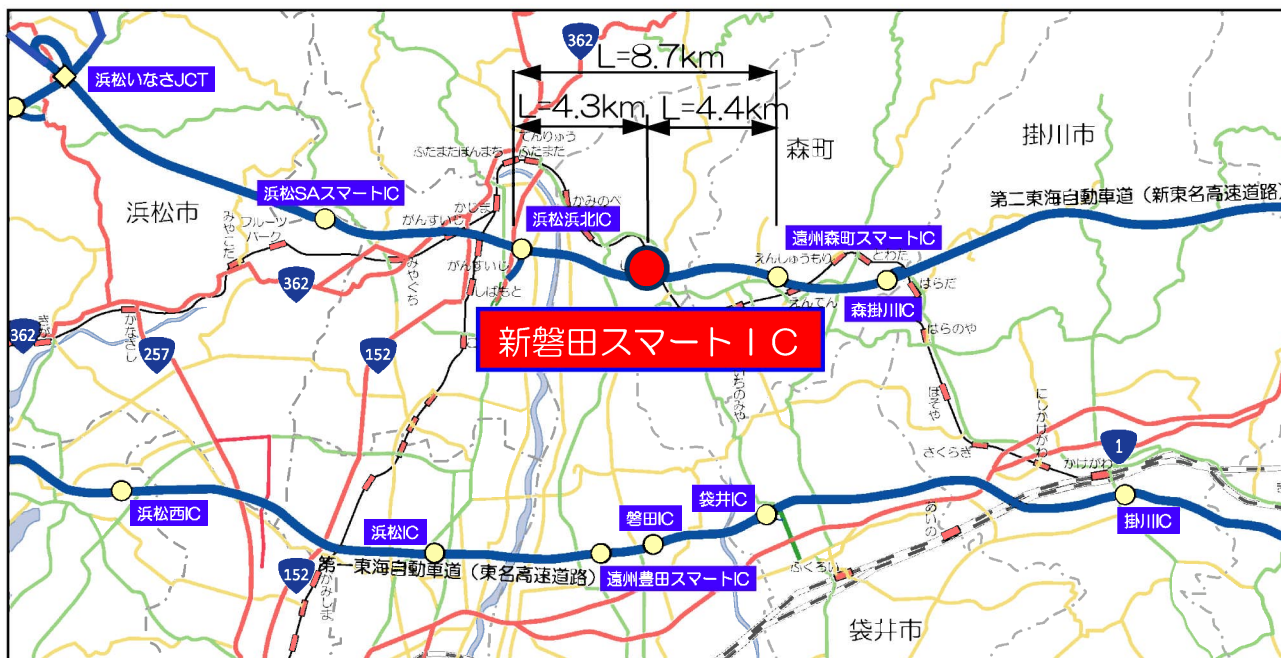
1.概要

接続路線名： 第二東海自動車道横浜名古屋線（E1A 新東名高速道路）

■ 広域図



■ 位置図



■ 概要

接続形態	本線直結型 フルインター形式
出入方向	全方向
利用時間	24時間利用可能
対応車種	ETC車載器搭載の全車両
供用開始	令和3年7月17日15時

1.概要(写真)

北から南を望む



南から北を望む

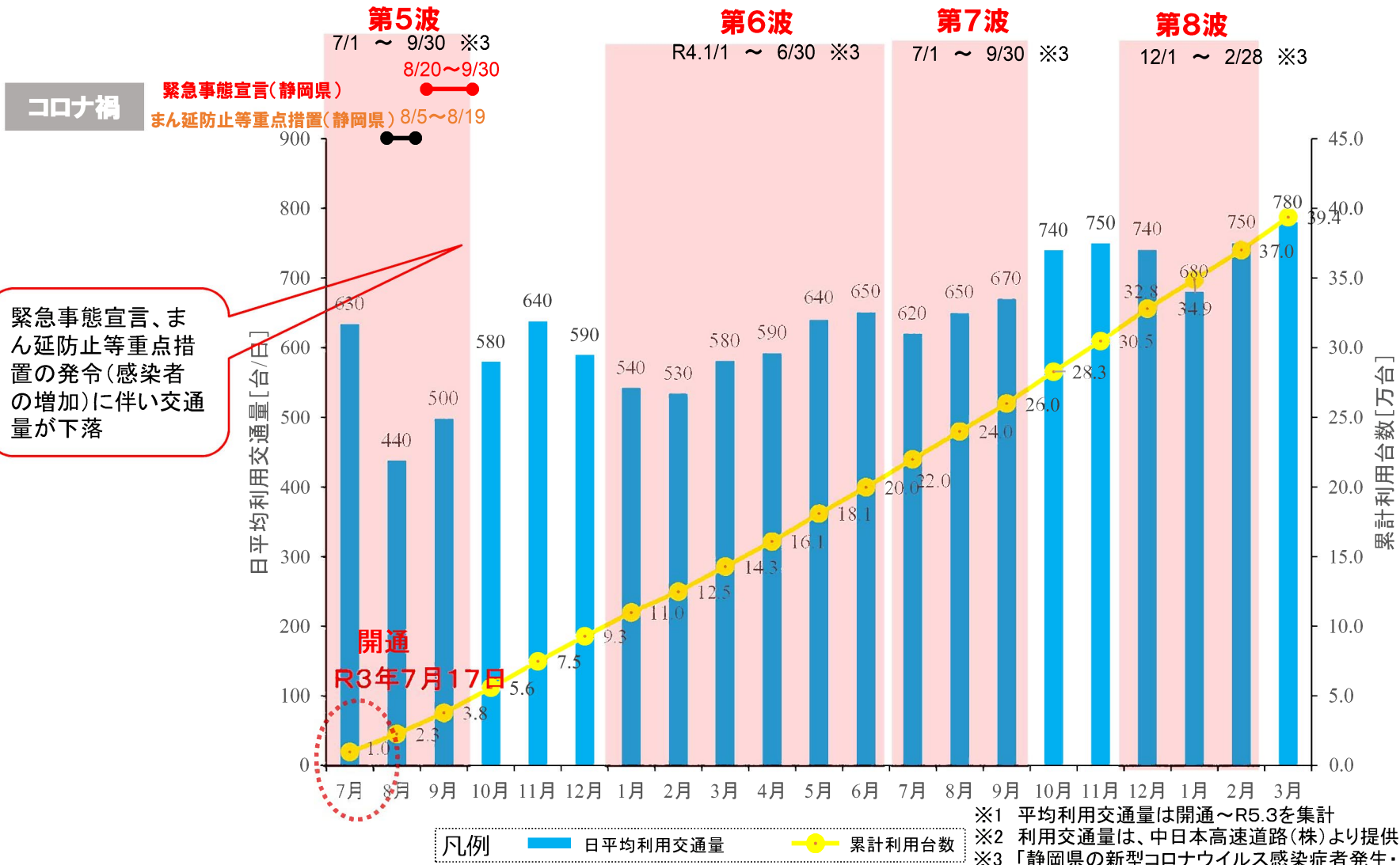


○連結許可 : 平成25年6月11日

○開 通 : 令和 3年7月17日

2. 利用交通量

- 計画交通量は1,500台/日
- 開通後(開通日～令和5年3月)の平均利用交通量は約630台/日※1
- 開通後の累計利用台数は約39万台



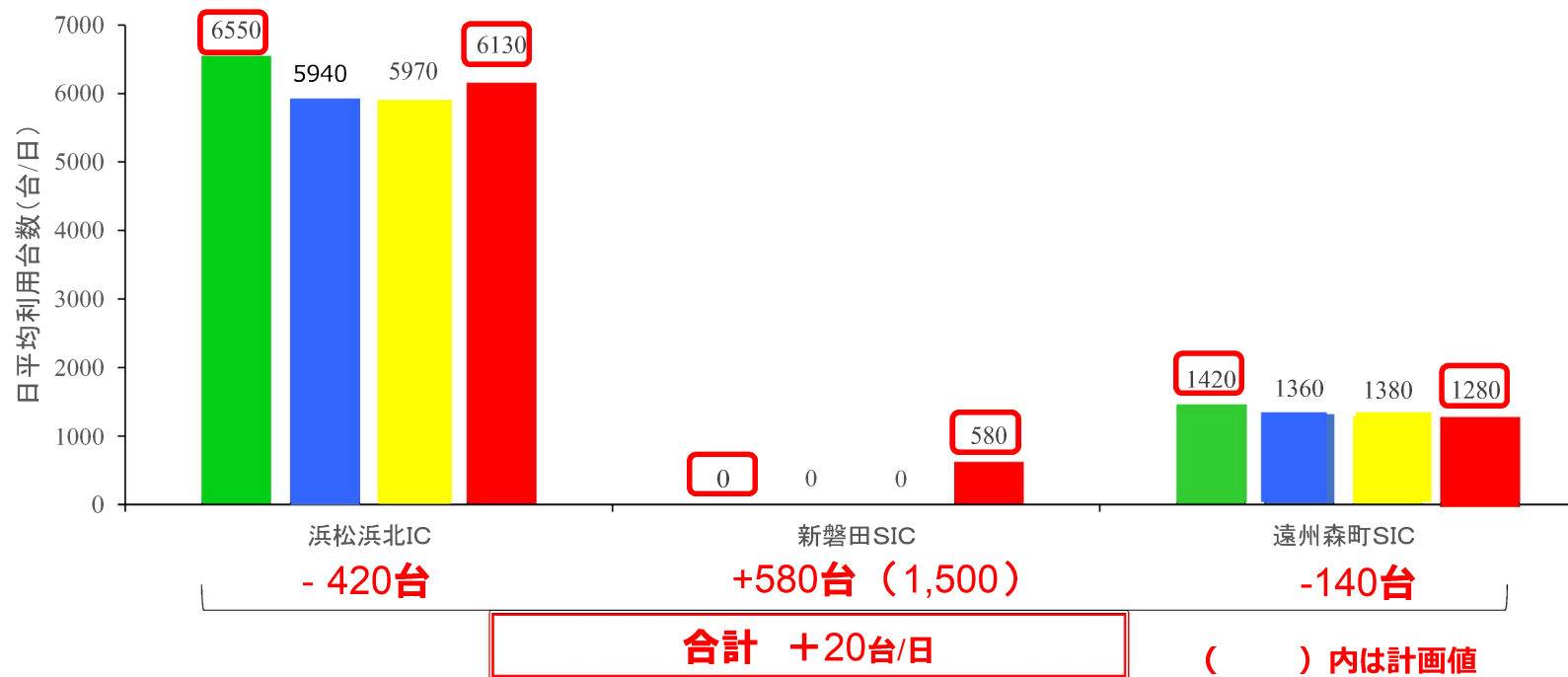
※1 平均利用交通量は開通～R5.3を集計
 ※2 利用交通量は、中日本高速道路(株)より提供
 ※3 「静岡県の新型コロナウイルス感染症者発生・入院等の状況」
 (静岡県健康福祉部新型コロナ対策企画課 & 推進課R5.1.27)

2. 利用交通量

利用交通量の変化

○新磐田スマートICとその前後の既設ICにおける出入交通量の合計は、整備の前後の既設ICにおける出入交通量の合計より20台／日増加。

【出入り交通量の変化】



■ 開通前 (2018.8~2019.7)
■ 開通前 (2018.8~2019.7)

■ 開通前 (2019.8~2020.7)
■ 開通後 (2021.8~2022.7)

※1 ■ 2018.8~2019.7と■ 2021.8~2022.7で比較

※2 中日本高速道路(株)より提供

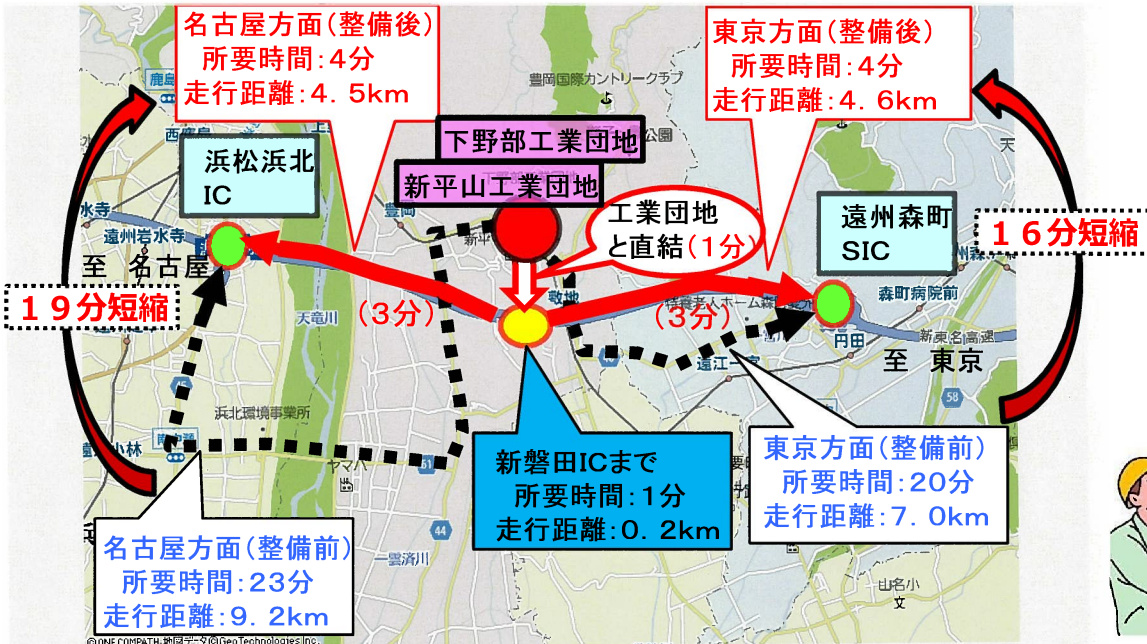
3. 整備効果

効果その1：工業団地直結による企業集積の促進及び雇用創出

- ①新磐田スマートIC開通により、新平山工業団地直結となり、高速道路までのアクセス時間が**東京方面で最大約16分、名古屋方面で最大約19分短縮**
- ②スマートIC事業化後、下野部工業団地に**新たに6社の企業が立地。499名の雇用を創出**
 団地企業の**86%が開通後に新磐田スマートICを毎日活用(96台/日:12社)**
移動時間の短縮や業務の効率化などの効果の声

<①高速道路までのアクセス時間の短縮>

◇新磐田スマートICの設置は工業団地と直結するため、大幅な時間短縮が図られる。
 「新平山工業団地から新東名ICまでの所要時間（東京方面 20分→4分） **16分短縮**
 （名古屋方面23分→4分） **19分短縮**



近隣企業へのアンケートより

回答企業（14社）R4.11.28~R4.12.23

◇輸送時間の短縮

13社について時間の短縮を「実感している」と回答
 東京方面、名古屋方面ともに「15分以上」（63%）
 「10~15分」（37%）の短縮を実感。

<②スマートIC周辺の企業立地>

磐田市 経済産業部 産業政策課からのデータベースより

◇新たな企業立地

- ・下野部工業用地立地企業数：6社
- ・雇用数の増加：499名（5社）の雇用増

近隣企業へのアンケートより

回答企業（14社）R4.11.28~R4.12.23

◇新磐田SICの利用：12社（86%）が稼働日は『毎日利用している』と回答
 平均利用台数 大型車78台/日 普通車18台/日

<新磐田スマートICに対する期待の声>



◇新東名高速道路を利用する場合、これまでは東京方面は遠州森町SIC、名古屋方面は浜松浜北ICを利用していたが、どちらも20分程度の時間を要していた。「新磐田SIC」の開業により、「輸送時間の短縮」だけでなく、「生産性の向上」や「ドライバーの負担軽減」のメリットを感じている。
 ◇取引企業との往来だけでなく、従業員の通勤時間の短縮などのメリットがある。（下野部工業団地：自動車開発・研究）
 ◇南側からのアクセス、大型トレーラーの通行への対応に期待したい。（新平山工業団地：自動車部品メーカー）

所要時間：実走による

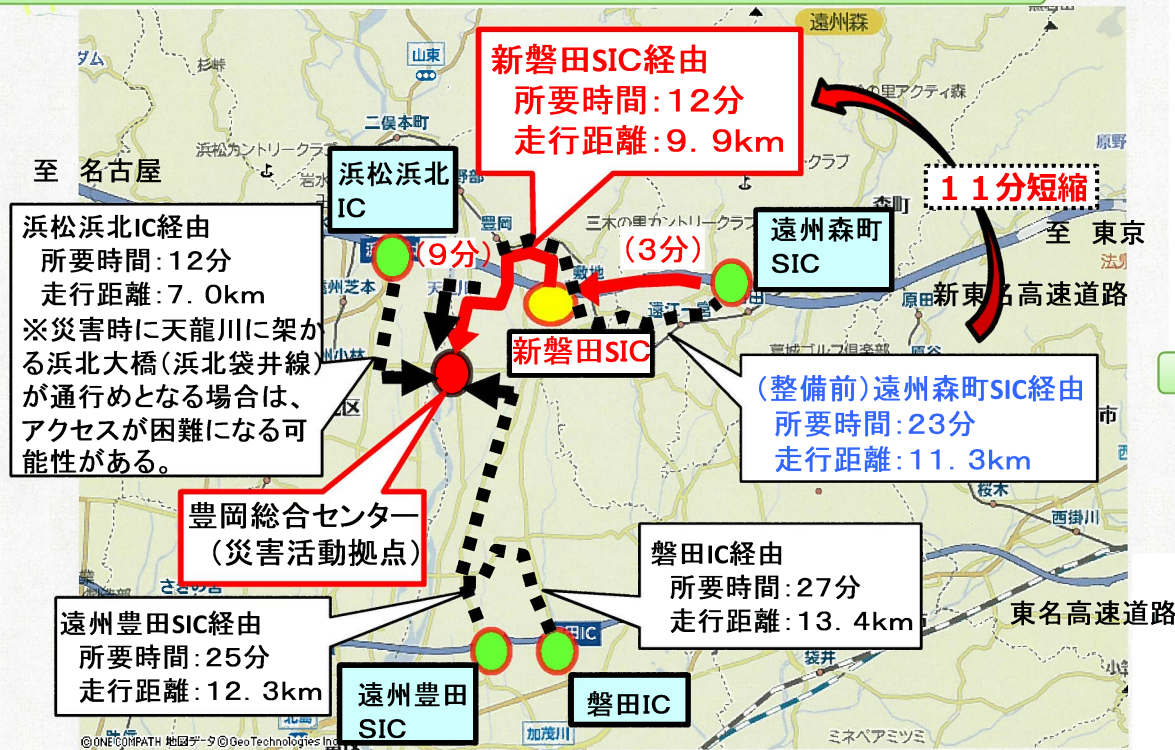
（令和4年7月28日14:00~）

3. 整備効果

効果その2：災害活動拠点への時間短縮、代替経路の確保

- ① 高速道路から豊岡総合センター（災害活動拠点）へのアクセス時間が東京方面で最大約11分短縮
- ② スマートICの設置により、被災地に移動する経路が多重化されるとともに、災害派遣時の迅速な対応が見込まれる

<① 救援物資運搬のためのアクセス時間の短縮>



◇災害時活動拠点までのアクセスについて、新磐田SIC経由が追加され**時間短縮**が図られた。

[東京方面より] 遠州森町SIC経由23分 → 新磐田SIC経由12分

11分の短縮

所要時間: 実走による

(令和4年7月28日14:00~)

<② 代替経路の確保>

◇災害活動拠点へのアクセスは、東名高速道路は「磐田IC」「遠州豊田SIC」、新東名高速道路は「浜松浜北IC」「遠州森町SIC」に加え、最も近い「新磐田SIC」経由が追加され、リダンダンシー（経路の多重化）を強化することとなり、ライフラインである高速道路との**アクセスの確実性**が増強された。

防災関係者（磐田市危機管理課）の声



◇物資の運搬が必要となる災害発生時は、主要道路への交通の集中や道路の封鎖も予想される。複数経路が確保できることで確実かつ早期の物資搬送が期待される。

◇災害時は、県内外より人的、食料その他物資の輸送が必要となるため、高速道路へのアクセス整備は、被災者等への早期支援に直結する重要な施設と感じている。

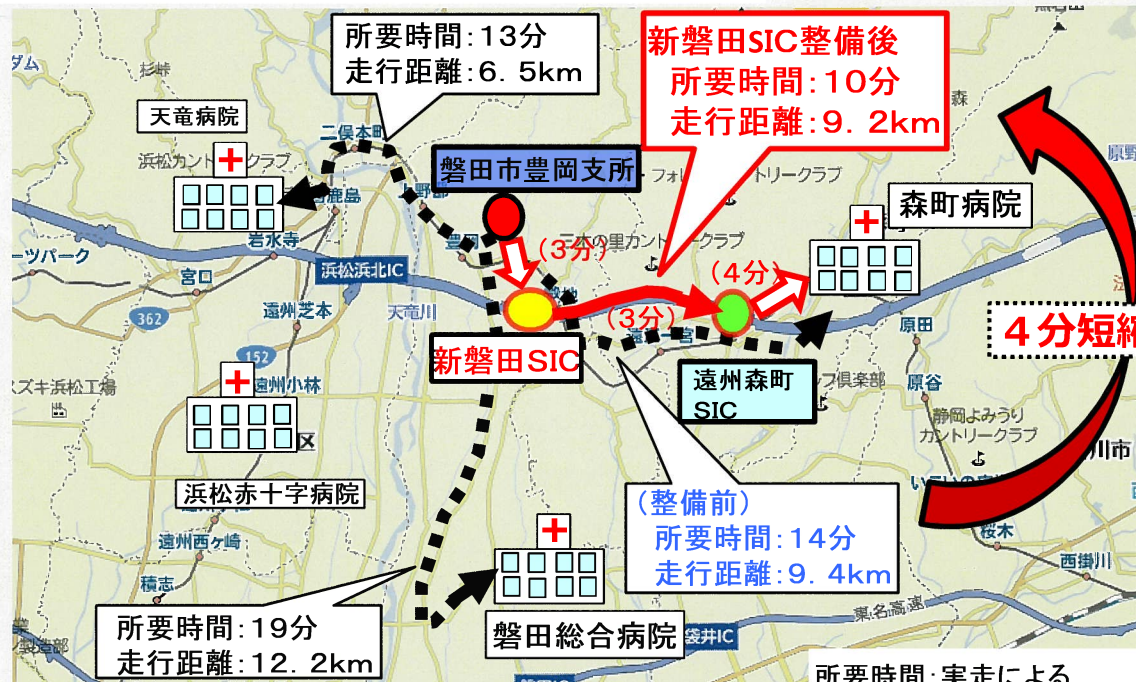
3. 整備効果

効果その3：搬送時間短縮による地域医療サービスの向上

①新磐田スマートICから新東名高速道路を利用することで、救急医療施設である森町病院への搬送時間が**4分短縮**

<①搬送時間の短縮>

<磐田市豊岡支所から救急病院までの搬送時間短縮>



◇医療施設への救急搬送は、災害時に発生することも想定される。しかし、災害時は、道路の封鎖等の混雑もあり、高速道路へのアクセスが増えることで新たな経路が確保される。

<森町病院までの搬送時間短縮効果>

磐田市豊岡支所より森町病院までの搬送時間を「新磐田SIC整備前後」で比較した結果、4分の短縮効果が発現。

(整備前) 14分 → (整備後) 10分

また、新磐田SICを利用することにより、磐田市北部地域が森町病院からの10分圏内へ拡大した。

救急活動による新磐田スマートIC利用実績

[開通後の出動(利用)状況]

- ・令和3年度は救急出動5件
(急患搬送1、交通事故3、資機材搬送1)
- ・令和4年度は救急出動3件(交通事故3)
火災出動1件

磐田消防本部の声

※磐田消防本部への聞き取りによる

◇これまでは、本市管轄内の事故、災害事案についても、隣接する浜松市、袋井市に先着対応を要請し、本市が遠州森町SIC又は浜松浜北ICを利用して後続支援を行っていた。新磐田SIC開業により、本市管轄内の出動について管轄本部の責務を果たすことが可能になるとともに、移動時間の短縮、被害拡大防止の効果を期待している。

「静岡県西部地区内新東名高速道路における消防相互応援協定」の改訂(R3.7.17より)

総務省消防庁刊行
「救助・救急2」より

カーラーの救命曲線 Golden Hour Principle

